

専任教員数

2023 年 5 月 1 日現在

	教授	准教授	助教	計
食物栄養学科	3 名	5 名	0 名	8 名
キャリア創造学科	4 名	3 名	0 名	7 名

※非常勤教員数:38 名

※専任教員と非常勤教員の比率 28% : 72%

年齢別教員数

2023 年 5 月 1 日現在

学科名	職 位	39歳以下		40歳 ～49歳		50歳 ～59歳		60歳 ～69歳		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
食物栄養 学科	教 授	0	0	0	0	1	0	1	1	2	1
	准教授	0	0	1	0	1	2	1	0	3	2
	助 教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	2	2	2	1	5	3
キャリア 創造学科	教 授	0	0	0	0	2	0	1	1	3	1
	准教授	0	0	0	1	1	1	0	0	1	2
	助 教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	1	3	1	1	1	4	3
合 計	教 授	0	0	0	0	3	0	2	2	5	2
	准教授	0	0	1	1	2	3	1	0	4	4
	助 教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	1	5	3	3	2	9	6
年齢別構成比		0.00%		13.33%		53.33%		33.33%		100.00%	

3 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
□□専任教員□□

教員組織

2023 年 5 月 1 日現在

役職等	学位	氏名	業績	担当科目
学長・教授	修士(教育学) 修士(社会科学)	小久保 純 一	[著書]新渡戸稲造『武士道』に学ぶビジネスリーダーの心得 2020年3月(日本の雄飛創刊号 TRAD田畑人間科学研究所) [著書]リコー三菱グループ創業者「市村清」から学ぶこと 2020年9月(日本の雄飛第2号 TRAD田畑人間科学研究所) [著書]大学改革のあり方がコロナ禍への対応を大きく変える―名古屋芸術大学の事例から考察する― 2020年11月(大学マネジメント2020.11月号大学マネジメント研究会) [論文]法人・大学におけるトップの意思決定に関する経営学的考察 2022年4月(大学マネジメント2022.4月号大学マネジメント研究会)□ [論文]経済成長における教育の役割に関する研究 2023年3月(大阪夕陽丘学園短期大学紀要第65号大阪夕陽丘学園短期大学)	夕陽学
教授	修士(工学)	山 口 眞 理	『山本鼎の日本農民美術運動』デザイン学研究第42巻2号、1995、『工学系デザイン教育機関の専門教育内容の変遷』デザイン学研究第57巻6号、2011	コンピュータと情報、情報文化論、情報リテラシー演習Ⅰ・Ⅲ、CG実習、基礎デザイン論、コンピュータ演習Ⅰ、ブライダルデザイン実習、教育の方法と技術
教授	博士(健康学)	森 久 栄	【著書】 『Nブックス栄養指導論』(建帛社2009)、『Nブックス改訂栄養指導論』(建帛社2015)、『栄養教育・指導実習』(建帛社2016)、 『はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ12公衆栄養学』(化学同人2017) 【論文他】 『The effect of the meal support for the metabolic syndrome improvement which focused on meal balance』15th International Congress of Dietetics(2008)、『診療所における糖尿病患者のニーズと食事指導の効果に関する一考察』大阪夕陽丘学園短期大学紀要53号(2010)、『母親の食育に対する認識およびスキルとしての食事バランスガイドの活と幼稚園児の食生活との関連』大阪夕陽丘学園短期大学紀要(2016)、『地域活動栄養士の継続した食育活動についての効果に対する検討』日本栄養士会雑誌(2018)、『乳児院、児童養護施設における食物アレルギー児の在籍状況および給食対応の実態：ガイドライン・マニュアルの有無別の比較』日本公衆衛生雑誌(2019)、「社会的養護施設と一般保育所・小学校における食物アレルギーの給食対応について」大阪夕陽丘学園短期大学紀要(2019)、『乳児院・児童養護施設における食物アレルギーの給食対応に関する課題：ガイドラインの有無別に見た栄養士・管理栄養士の意見から』人間健康研究科論集(2019)、『新型コロナウイルス感染症対策を施した調理系実習における主観的理解度についての検討：オンラインと対面での比較』大阪夕陽丘学園短期大学紀要(2020)、 『チューター・チューティーの変化から見たチューター活動の評価』大阪夕陽丘学園短期大学紀要(2022) 【行政計画策定委員】 貝塚市「第2期健康かいつか21」計画策定委員会委員(2013) 【受賞歴】 第7回大阪府栄養士会太田いそ研究奨励賞(2003)、第10回大阪府栄養士会太田いそ研究奨励賞(2006)、日本栄養士会会長表彰(2013)、第6回大阪府健康づくりアワード奨励賞受賞(2021)	栄養指導論、栄養指導論実習Ⅰ・Ⅱ、栄養指導各論、就職実践演習、特別研究Ⅰ・Ⅱ
教授		橋 本 和 弘	【著書】 『家族みんなのバランスごはん』(共著)三修社、2007年 【学会発表、招待講演、基調講演、シンポジウム等のパネリストなど】 「調理環境と技術習得の居住形態別比較」(共同)第21回日本健康体力栄養学会、大阪府堺市、2014年3月 「調理意識と技術習得の履修前後比較」(共同)第22回日本健康体力栄養学会、千葉県市川市、2015年3月 「給食調理員 調理技術研修」講師、藤井寺市シルバー人材センター、2015年3月 「可食セルロース麺の料理」講師、日本穀物研究会例会、2015年5月 「給食調理員 調理技術研修」講師、大阪府シルバー人材センター協議会、2015年9月 「調理員 調理技術研修」講師、大阪府シルバー人材センター協議会、2016年1月 「給食調理員 調理技術研修」講師、大阪府シルバー人材センター協議会、2016年1月 【研究・教育に関する受賞歴】 「大阪府知事表彰受賞(栄養関係功労者)」、2015年11月 【外部研究】 「可食セルロース麺の調理特性を検証と料理提案」、2014年10月	調理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、給食管理実習Ⅲ(学外)、特別研究Ⅱ

役職等	学位	氏名	業績	担当科目
教授	博士(獣医学)	成 田 和 巳	・大阪市内の鮮魚店で購入したスルメイカのアニサキス幼虫感染状況の調査、成田和巳、大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第64号(2021) ・絶食により増加する走行運動に対するレプチンの抑制効果、成田和巳、大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第63号(2020) ・Isotope-labeled pyrylium compound. ヨーロッパ特許,EP2837625 B1, June 17, 2017. ・The ventromedial hypothalamus oxytocin induces locomotor behavior regulated by estrogen. Narita K, Murata T, Matsuoka S, Physiol Behav. Vol. 164, Pp107-112, 2016. ・アミノ基含有非ペプチド化合物を高効率かつ高感度で多重定量する方法およびそのためのキット、松川 茂、成田和巳、下平晴記、2016.7.1、特許第5958957号 ・Quantification of brain dopamine and amino acids with high resolution mass spectrometry using novel stable isotope labeled reagent. J Physiol Sci 2014, vol 64, (Suppl) S158,Kazumi Narita. ・質量分析によるラット脳ドーパミンの高感度定量、成田和巳、Scientific Instrument NEWS (2013) vol.56(1) pp10-15. ・Dietary deficiency of essential amino acids rapidly induces cessation of the rat estrous cycle. Narita K, Nagao K, Bannai M, Ichimaru T, Nakano S, Murata T, Higuchi T, Takahashi M. PLoS One. 2011; 6(11): e28136. ・Voluntary wheel running restores leptin resistance in the rats fed with high fat diet. Narita K, Murata T, Ichimaru T and Higuchi T, J Physiol Sci Vol. 58 (Suppl) S94 (2008) ・運動を起こす視床下部 ～視床下部走行ニューロンによる本能的な走行運動の発現～、成田和巳、村田拓也、樋口隆、体育の科学 56巻1号、18-21 (2006) ・Estrogen facilitate the running behavior induced by oxytocin injection into the rat ventromedial hypothalamus. Narita K, Murata T and Higuchi T, The Japanese Journal of Physiology Vol. 56 (Suppl) S207 (2006) ・Fasting induced changes in GABA and glutamate release in the ventromedial hypothalamus using in vivo microdialysis. Narita K, Murata T and Higuchi T, Neurosci Res Vol. 50 (Suppl 1) S189 (2004)	解剖生理学、解剖生理学実習、生物学、食物基礎科学、食品衛生学実験、特別研究Ⅰ・Ⅱ
教授	博士(経済学)	宇都宮 浩 司	[著書] ・北川勝彦・北原聡・西村雄志・熊谷幸久・柏原宏紀編『概説世界経済史(増補改訂版)』分担執筆(昭和堂、2022年)分担執筆 ・細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』(明石書店、2017年)分担執筆 [論文] ・「新しい公民科目「公共」における社会保障教育の課題と可能性」九州国際大学『教養研究』第27巻第2号(2020) ・「神戸市A社による地域密着型の小売戦略」日本都市学会『日本都市学会年報』第53巻(2020) ・「両大戦間期の日加貿易史に関する一考察:通商擁護法の発動と適用をめぐって」九州国際大学『教養研究』第26巻第1号(2019) [研究ノート] ・「神戸市における農福連携事業の特質と課題—法人Aの事例—」九州国際大学『教養研究』第26巻第2号(2019) [調査報告書] ・「就労継続支援B型事業所の経営方式と人材育成」神戸国際大学経済文化研究所『経済文化研究所年報』第30号(2021) ・「在中日系鍍金企業における国際分業」神戸国際大学経済文化研究所『経済文化研究所年報』第30号(2021) ・「在中日系鍍金企業における対中進出と環境規制」『神戸国際大学紀要』第100号(2020) ・「神戸市における靴小売業の展開」神戸国際大学『経済文化研究所年報』第29号(2020) ・「尼崎市の金属加工メーカーM社における熟練工と競争力」『神戸国際大学紀要』第98号(2019) [学会報告] ・「神戸市における地域密着型小売戦略—オフプライスストア型小売企業の地域資源活用型の経営方式—」日本都市学会第66回全国大会(2019)	コーオブ実践特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、企業研究Ⅰ・Ⅳ、経済学、マーケティング論、販売論、プロジェクト演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、キャリアデザイン特論

役職等	学位	氏名	業績	担当科目
准教授	修士(芸術学)	白 坂 文	・「今日の若者の衣服における消費者行動についてー2018・2019年の調査実態比較よりー」ファッションビジネス学会論文誌Vol.27(2021) ・「ファッションデザインコースの産学連携イベントin近鉄百貨店」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要第64号(2021) ・「ウエストダーツの縫い開始位置による縫い易さ及び仕上がり」の美しさ、指導法に関する検討」武庫川女子大学生生活環境学研究9号(2021) ・「キャリア創造学科メイク実習における3Dプリンタ教育媒体の利用」日本教育情報学会年会論文集36(2020) ・「コロナ禍における高校生の布マスクの好みについてーオープンキャンパスに参加した高校生を対象にー」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第63号(2020) ・「パールズコレクション2020in志摩」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第63号(2020) ・「中学校家庭科教材としての縫製手順の検討ーハーフパンツを事例としてー」武庫川女子大学学校教育センター紀要 第5号(2019) ・「産学官連携の記録〜『パールズコレクション2019in志摩』を一例として〜」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第62号(2019) ・「スポーティーとエレガンスの融合〜スポーティー・カクテルドレスの提案〜」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第62号(2019) ・「基礎縫いの技術に関する考察と被服製作に対する意識について」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第61号(2018) ・「プライダルファッションにおける新しいデザインの提案」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第61号(2018) ・「ダーツの縫い始め位置の違いが仕上がりを与える影響」日本家政学会関西支部 第40回研究発表会(2018)	ファッションコーディネート演習、ファッションデザイン論、アパレル構成学及び実習Ⅰ、プライダルスタイリング実習、アパレル構成学実習Ⅱ、ファッションクラフト実習、プロジェクト演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、キャリアデザイン特論
准教授	修士(都市経営)	向 山 久 子	・「産学官連携事業の記録『パールズコレクション2020in志摩』」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要第63号(2020) ・「産学官連携事業の記録『やぶ市民交流広場〜ハーベストウェディング〜」大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第64号(2021)	プライダル概論、プライダルプランニング実習、プライダルプロデュース実習、ホスピタリティ論、プライダルマーケティング論、プライダルビジネス論、キャリアデザイン概論、キャリアプランニング、プロジェクト演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、キャリアデザイン特論
准教授	修士(食物栄養科学)	高 嶋 典 子	【論文】「給食の運営」校外実習における新型コロナウイルス感染拡大の影響分析および振替実習との学習到達度比較ー2021年度「チューター・チューティーの変化から見たチューター活動の評価」(共著)大阪夕陽丘学園短期大学紀要第65号(2022)大阪夕陽丘学園短期大学紀要第65号(2022)「動物性食品におけるゲル化剤を用いた嚥下調整食の適切な提供方法について」同志社女子大学生生活科学vol.52(2019) 【著書】「よりよい嚥下(調整)食を提供する給食管理のコツと作り方」嚥下食メニューコンテスト入賞作品集Vol.2(療生活デザイン研究所(2019)) 雑誌Nutrition Care連載「つくって楽しい、食べておいしい! 嚥下障害者のための調理の工夫」第6巻4号ー第7巻3号「和楽嚥スウィーツお菓子の玉手箱 春夏秋冬季節&郷土のお菓子で嚥下調整食レシピ」第7巻6号ー第8巻5号(メディカ出版2013ー2015) 【学会発表】「嚥下調整食の教育動画とのハイブリッド型調理実習の開催報告」姫路市地域包括支援センターを通じたフレイル予防のための栄養啓発活動」日本臨床栄養代謝学会学術集会(2023) 「広げよう支援の輪 医療的ケア児の摂食嚥下障害」京滋摂食嚥下を考える会第11回大会web開催の報告、滋賀県多職種連携学会(2021) 管理栄養士養成校における臨床栄養活動の実践教育ーNST専門療法士の実務家教員としてー、日本臨床栄養代謝学会学術大会(2021) 管理栄養士養成課程におけるブレインストーミングによる問題志向型診療記録(POMR)の学習の教育手法について、日本栄養改善学会近畿支部学術総会(2020) 京都府の病院における嚥下調整食の提供状況調査、日本栄養改善学会学術総会(2019)動物性食品における嚥下調整食の適切な調理条件についてー品温、水分量および脂質量が物性に及ぼす影響ー、日本栄養改善学会学術総会(2018) 【講演】(一社)兵庫県社会福祉士会 西はりまブロック研修講師「嚥下リハ×栄養×YOU」(姫路市民会館、2022.11.6)滋賀県リハビリテーションセンター摂食嚥下コース教育研修講師「食べ物を飲み込みやすくする工夫」(守山市すこやかセンター、2022.10)滋賀県リハビリテーションセンター教育研修事業 摂食嚥下コース教育動画「食事編①とろみ剤の使いかたと濃度調整」「食事編②嚥下調整食の作りかた(主食)」「食事編③嚥下調整食の作りかた(市販食品)」フードシステムソリューション2017主催セミナー講師「最期まで口から食べるためにー地域で支える嚥下食革命! 京都・滋賀の挑戦ー」(東京ビックサイト、2017.9) 【受賞歴】(一社)日本医療福祉セントラルキッチン協会「第1回地域の伝統食でつくる嚥下食メニューコンテスト2013」最優秀グランプリ受賞	給食管理実習Ⅰ・Ⅱ、給食管理実習Ⅲ(学外)、献立作成論(給食)、給食管理論、特別研究Ⅰ、栄養学特論
准教授	修士(学校教育学)	山 崎 明 宏	(論文)「『望ましい集団活動』を基にした『特別活動論』の授業実践に関する研究」ブール学院大学研究紀要第52号(2012)「公立学校教員の職責理解を促す『教職概論』の授業実践に関する研究」ブール学院大学研究紀要第53号(2013)「総合的な学習の時間の教育的価値に関する一考察」大阪夕陽丘学園短期大学紀要第63号(2020)「栄養士養成課程におけるAIとICT活用による教育効果の向上について」2022年度ICT利用による教育改善研究発表会プロシーディング、166頁ー169頁(2022) (教育実践記録等)「大阪市教育研究会社会科部社会科指導計画第12次試案」大阪市教育研究会社会科部(2011) (学会発表)「『地域を追求する』カリキュラムと評価」日本カリキュラム学会(2013)、「ソーシャルスキルの向上を旨としたグループ活動の実験」日本学校教育相談学会(2013)	教育原理、教職概論、教育課程論、教職実践演習、栄養教育実習(学内)、栄養教育実習(学外)、道徳・総合的な学習の時間・特別活動の理論と方法、教育の方法と技術、食物基礎科学、キャリア基礎演習Ⅰ・Ⅱ

役職等	学位	氏名	業績	担当科目
准教授	博士(学術)	永 島 聡	・教育相談・生徒指導場面に於いて「様子を見る」こと――「逆説志向」から考える、『神戸常盤大学紀要』第10号, 2017. ・大学や高校を中退することの「意味」―学生相談・教育相談・生徒指導場面から考える,『神戸常盤大学紀要』第11号, 2018. ・共感とは善なのか? : 学生相談・教育相談・生徒指導場面そして看護場面から考える,『神戸常盤大学紀要』第12号, 2019. ・多文化共生社会における“empathy”と「共感」――両概念は本当に重要なのか,『神戸常盤大学紀要』第13号, 2020. ・外国にルーツを持つ子どもが「自閉症スペクトラム」とみなされることについての考察 : 多文化共生社会における教育相談の課題,『神戸常盤大学紀要』第14号, 2021. ・「雑談」のような対話をFrankl思想の「人間観の3つの柱」等から考える, 日本学生相談学会第40回大会発表論文集, 2022.	心理学、生徒指導・教育相談の理論と方法、教職実践演習、教育心理学、リラクゼーション論、哲学、特別研究Ⅰ・Ⅱ
准教授	博士(医学)	大 西 浩 之	・「高濃度ポリフェノール含有天王寺蕪スプラウト作出のための養液条件の検討―アミノ酸添加の影響―」、大西浩之、治京玉記、大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第64号(2021) ・「糠漬けに伴うナスの物性変化と品種間差」、大西浩之、宮澤大介、吉岡弘毅、大阪夕陽丘学園短期大学 紀要 第62号(2019) ・“Stromal cell-derived factor-1(SDF1)-dependent recruitment of bone marrow-derived renal endothelium-like cells in a mouse model of acute kidney injury”, J. Vet. Med. Sci. 77:313 (2015). (2015JVMS論文賞受賞). ・Biochemical Basis and Therapeutic Implications of Angiogenesis, Chapter 22 “Physiological Roles and Therapeutic Implications of Hepatocyte Growth Factor for Angiogenesis” (pp.413-443), 2013. ・“Identification of mannose receptor as a receptor for HGF β-chain: A novel ligand-receptor pathway for enhancing macrophage phagocytosis”, J. Biol. Chem. 287: 13371 (2012). ・“Inhibition of tubular cell proliferation by neutralizing endogenous HGF leads to renal hypoxia and bomarrow-derived cell engraftment in acute renal failure”, Am. J. Physiol. Renal. Physiol. 294: F326 (2008). ・“Inhibition of cell proliferation by nobletin, a dietary phytochemical, associated with apoptosis and characteristic gene expression, but lack of effect on early rat hepatocarcinogenesis in vivo”, Cancer Sci. 95: 936 (2004).	食品学Ⅰ・Ⅱ、食品学実験Ⅰ・Ⅱ、生化学、特別研究Ⅰ、生化学特論
准教授		丹 埜 裕	【研究・教育に関する受賞歴】 「ひょうごの匠(菓子製造職種)」,2017年4月 「神戸市優秀技能者表彰」,2017年9月 「兵庫県技能顕功賞」,2022年11月	製菓理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ、製菓実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ、社会、プロジェクト演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、キャリアデザイン特論
准教授		花 岡 智 子	【著書】子どもの食と栄養 (株)青踏社 共著 担当: 第4章1「妊娠期と胎児の栄養」 第4章3:「離乳期の栄養」 (4) 食べる機能の発達 【論文他】 * 2型糖尿病モデルラットにおいて、長期間の自発的運動が、経骨微細構造と骨強度の劣化を防ぐことを見つけた。 2017, 1, 433-43. Journal of musculoskeletal & neuronal interactions Akira Minematsu, Tomoko Hanaoka, Daisuke Takeshita, Yoshihiro Takada, Shunji Okuda, Hidetaka Imagita, Ssuumu Sakata * 2型糖尿病モデルラットOtsuka Long-Evans Tokushima Fatty(OLETF)が、腎障害バイオマーカーによる解析により糖尿病誘発慢性腎不全疾患の病態モデル動物として適していることを証明した。 第68巻、pp55 - 61 武庫川女子大学紀要 2021年 3月 保井俊英, 花岡智子, 高田義弘, 竹下大輔, 鷺尾弘枝, 進藤大典, 中谷昭, 坂田進 * 2型糖尿病モデルラットにおいて、長期間の自発的運動が、解糖系で得られるエネルギーを用いて筋収縮を行う速筋線維typeIIb の減少を抑制することを見つけた。この機序により、継続的な運動が糖尿病ラットの握力低下を防ぐことが明らかになった。 2021, 9, e15046. Physiological Reports Yoshihiro Takada, Tomoko Hanaoka, Hidetaka Imagita, Toshihide Yasui, Daisuke Takeshita1, Masami Abe, Shinnosuke Kawata, Taku Yamakami, Keisuke Okada, Hiroe Washio, Syunji Okuda, Akira Minematsu, Tomohiro Nakamura, Shin Terada, Takashi Yamada, Akira Nakatani, Susumu Sakata * 調理師試験講習会 調理師試験受験者を対象に、「食品衛生学」「公衆衛生学」の過去問題の解説を行った。2021年 6月、2022年5月調理師免許指導協会 於) 京都アスニー	応用栄養学、ライフステージ栄養学実習、臨床栄養学実習、ライフステージ栄養学、特別研究Ⅰ・Ⅱ